

地域包括ケアに関する取組み

城南区

〇概況

令和7年3月末現在

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】 城南区は市のほぼ中央部に位置する住宅・文教地区である。区内を縦貫する地下鉄七隈線や横断する平成外環通り等の整備により、交通利便性の向上が図られている。大規模団地に加え中小の宅地開発が進み、急速に市街地化・住民の定住化が進んだ結果、全市平均を上回るスピードで高齢化が進み、高齢化率が全市で1番高い状況である。 【高齢者の状況(高齢化率や介護保険受給者状況)】 高齢化率は全市で1番高率だが、鳥飼校区の20.4%から堤丘校区の35.4%と校区でも幅があり、特にUR等大規模団地を抱える町内では高齢化が進んでおり、独居・閉じこもりや認知症、8050問題等の高齢者支援の取組みが急務となっている。 【社会資源(介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況)】 地域における高齢者向けのサロンやカフェ等は新型コロナウイルス感染症の影響で、活動を中止した地域も多かったが、R4年度から徐々に活動が再開しており、現在は以前に戻っている。医療機関や介護事業所の分布は圏域毎に異なり、病院は区内9か所。区内の福岡大学病院は、平成26年に認知症疾患医療センターの指定を受けている。 令和4年4月より城南警察署が開設され、さらに連携が取りやすくなっている。	人口(人)	125,471
	高齢者数(人)	32,765
	高齢化率(%)	26.1
	小学校区数 (自治協議会数)	11
	いきいきセンター 圏域数	5

〇地域包括ケアに関する現状と課題

- ・複合課題を抱えるケース対応が増えている。気づいた時点で躊躇せず、地域包括支援センターやケアマネジャーに連絡することが、早期対応につながるため、関係機関の理解と連携が重要である。また、個別支援会議や事例検討会で複数回振り返る機会をもち、客観視することも重要である。個別支援会議には積極的に参加し、専門機関(医療・介護・障がい・保護CW・民生委員など)と連携を図ることは重要である。
- ・ケース支援について、誰が中心になるか、ケアマネジャーだけに負担が集中しないよう工夫が必要である。養護者支援には時間を要するため、粘り強く長期的視点でアプローチしていく。
- ・「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」に基づき、認知症に対する正しい理解促進の啓発を継続して行っていく。
- ・担い手の育成を見据えた多世代交流の取り組みの意味や必要性を分かりやすく見える化し、情報発信していくことが必要である。
- ・医療・介護サービス事業者の他にも、民生委員やふれあいサロン、郵便局等の地域活動の担い手も交えた連携の仕組みを構築する必要もある。
- ・LINE等でのネット被害やロマンス詐欺は大きな社会問題であり、一層の注意喚起が必要である。

1. 令和7年度取組みの中で、特徴あるもの

取組内容

デジタルゲームを活用したフレイル予防の取組み

- ・デジタルゲームを活用した新たな通いの場を創出し、高齢者の社会参加促進を図る。
- ・デジタルゲームを活用した多世代交流イベントや指導者養成講座を開催し、地域活動の新たな担い手の育成を図る。

多世代交流イベントの開催

新たな「通いの場」の創出

ボランティアの育成

地域全体でフレイル予防

在宅医療・在宅介護の推進に向けた取組み

【市民啓発】人生100年時代に備える講座として、今年は「聴覚の老化」と「高齢者施設や介護サービス」について講演会を計画。認知症サポーター養成講座やユマニチュード講座を計画し、新しい認知症観の理解を深め自分らしく生活できる地域を目指す。また、9月の認知症月間では、当課窓口と城南図書館に書籍コーナーを設置、合わせて認知症キャラバンロバ隊長のストラップを作成し啓発グッズとして配布予定。

【専門職向け】「セルフネグレクトと孤立死」をテーマに、早期発見・早期介入、見守りについての研修会の開催や、地域包括支援センターと区障がい者基幹相談支援センターとの交流会の定期開催を計画。他機関・多職種との連携を深め、専門職の支援スキルの向上につなげ、複合的な課題の解決を図る。

権利擁護関連の地域包括支援センターの対応力向上と地域向けの啓発推進

高齢者の総合相談窓口である「包括支援センター」において、対応中の処遇困難な事例については、圏域を越えて区内の各包括と広く共有・意見交換を行うことで、各事案を類型化し、対応方法の明確化に努め、センターの虐待等の権利擁護対応力の向上を図る。また、地域活動の様々な機会を通して、認知症、権利擁護、成年後見制度等に関する理解の促進のための啓発を行っていく。

2. 令和6年度の取組状況

(1) 地域ケア会議の状況

① 個別支援における成功事例、課題など(個別支援会議の傾向など)

個別支援会議 開催状況	会議回数： 34回 / 44件(内、介護予防型個別支援会議 5 回/ 15 件)
----------------	--

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

『つなぐまちべふネット ～多職種と連携した取り組み～』 (別府校区)

令和5年12月、校区担当保健師・地域包括支援センター・区社協事務所が連携して地域の介護保険事業所等の「地域貢献したい」という思いをつなぎ、事業所ネットワーク「つなぐまちべふネット」が立ち上がりました。

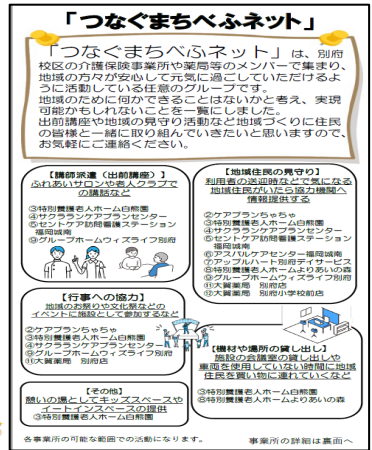
関係者間で協議を重ね、R6年度からは年数回定例会を開催し、地域の情報共有や、地域団体からの支援依頼について協議し対応しています。

つなぐまちべふネット定例会



15か所の事業所と
地域の医療機関が参加し、
より充実した活動を展開
していく予定です♪

校区住民に「つなぐまちべふネット」を知ってもらうため、「地域のためにできること」や事業所の紹介等のチラシを作成。高齢者地域支援会議などの場を活用して周知を図っています。住民からは「心強い」等の声が聞かれ、地域からの支援依頼につながっています。今後も地域住民、地域の事業所、行政が連携し、「年を重ねても安心して生活し続けられる地域づくり」に取り組んでいきます。



高齢者地域支援 会議開催状況	会議開催校区数：校区、延べ回数：8校区 12回 検討内容：高齢者を見守るネットワークづくり、校区交流会(見守りマップ作成)、校区の社会資源についてなど
-------------------	--

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

「複合課題を抱えるケースの支援を考える～地域と多職種連携」

令和6年度城南区ケアマネジャー研修会

ケアマネジャーも、支援において、複合課題を抱えるケースの相談が増えてきており、高齢者世帯への対応がより困難化している。なかでも8050世帯、認知症の親とひきこもり子ども、ヤングケアラー等は、経済困窮を伴うことが多く、「福岡市生活自立支援センター」との連携が有用であった。今後、複合課題、経済困窮のケース支援の際に、効果的な連携を図るため、今回ケアマネジャーを対象に研修会を開催した。多様な事例紹介があり、多職種との連携の必要性と介護保険外のサービス活用や様々な社会資源を理解することができた。生活自立支援センターの役割や相談の流れが明確となり、相談できる連携先の一つとなったとの声が聞かれた。

圏域連携会議 開催状況	会議回数：1回 第4圏域(堤・堤丘校区) 検討内容：民生委員と成年後見制度について学び、日頃の高齢者支援を振り返り、意見交換を行うことで連携強化を図った。
----------------	--

④ 区レベルの取組み

【市民啓発】①ACP(アドバンス・ケア・プランニング)講演会「自分らしく生きるを考えよう-

自分も家族もHappyはプレ終活-」を開催。病気になった時、もしもの時に備えて希望する医療やケアについて、また大切な人へ自分の希望や思いを伝えておくことの大切さを伝え、考える講座となり、好評であった。

②9月の認知症月間は書籍コーナーを設置し、缶バッジやポケットティッシュを配布し、認知症についての正しい知識の普及啓発を図った。

【専門職向け】①「高齢者との向き合い方を深めるために」と題し、言語聴覚士の視点から、加齢性難聴や摂食嚥下機能について講座を開催し高齢者のコミュニケーション機能を考える機会とした。

高齢者に対する声のかけ方や問い方、注意して観察する視点を、皆で話し合うことで、気づき、理解することにつながった。

【権利擁護】①地域包括ケア推進会議において、区レベルで関係機関が連携していく必要性が確認されたため、支援機関の連携強化を目的に、課題を抱えた世帯ごとに地域包括支援センターが主宰する個別支援会議や他の支援機関が実施するケアカンファレンス等には、可能な限り積極的に参加している。②支援機関が抱える不安や疑問には、行政として速やかに考えや方向性を示し、要介護世帯が抱える課題解決に向けて支援チームの一体感の醸成に努める。状況に応じ、民生委員をはじめとした地域の共助力を仰ぎ、地域の見守りの眼の充実を図っている。



地域包括ケア推 進会議開催状況	区地域包括ケア推進会議：1回 高齢者保健福祉相談事業報告、地域包括ケアに関する取り組み報告等 専門部会 ①在宅医療・介護部会：1回 ②権利擁護部会：1回 ③生活支援・介護予防部会：1回
--------------------	---

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組	具体的内容
多職種連携研修会 (医師会委託事業)	区内の拠点病院を中心に、3ブロックに分かれて研修会を行う。 ・Aブロック：事例検討「退所後、自宅か施設か迷う母と娘へのサポート」多職種からみた住宅へのサービス提案」、グループワーク ・Bブロック：研修「ユマニチュードを知ろうーコミュニケーション技法体験ー」、グループワーク ・Cブロック：事例検討「進行性の多彩な症状を呈する神経難病症例の生活を多職種で支えるー嚥下リハビリおよび在宅での栄養補給法について検討ー」グループワーク
在宅医療に関する市民講座 (医師会委託事業)	第80回学んで予防！福大病院健康セミナー「住み慣れた地域で自分らしく～在宅医療と介護について～」をテーマに講演会を実施。
同一業種による連絡会開催 ①城南区ケアマネ会 ②訪問看護ステーション連絡会 ③地域密着部会 ④小規模多機能ネットワーク	①総会1回、圏域毎の担当主催で研修会を5回開催。主任ケアマネ会で連絡会を開催し、区ケアマネ会の計画立案を行う。 ②定期連絡会3回、引継ぎ打合せ会2回開催。後方支援を行っている。 ③世話人会3回、部会を2回開催。「大規模災害時の事業所としての心得」「自然災害時におけるBCPを見直そう」をテーマに研修や意見交換会を開催。 ④今年度発足、5回開催。7事業所が集まり、情報交換や地域貢献、ケア向上等を目的に連絡会を開催。
事業所ネットワークの活動	校区単位や圏域を超え、地域貢献や共働活動、個別ケースへの支援等を行うネットワークが4つ結成している。そのほか、認知症の本人と家族の相談から、「オレンジネットワーク城南」が発足し、「本人のしたいをかなえる会」を2か月に1回の定期開催とし企画運営を行う。